

若手・中堅職員の 現場を楽しむ

「マイペース」活用術



第3回 マイペースに立ち回る

ほん だ しげる
本田 茂

農業経営診断士 6次産業化プランナー



1. はじめに

これから外部環境が劇的に変化する時代の中で、皆さんがどう仕事をしていくか？ マイペースという一見逆説的な考えの中に、今を生き抜くヒントがあるのではないかと。というコンセプトでこの連載をはじめました。現場で悩む多くの役職員の皆さんに読んでいただきながら、問題解決の一助になればと思います。

第1回目で「マイペースの考え方」とは、「競争をしないこと」や「嫌われる勇気を持つこと」をまず実践して欲しいと解説しましたが、ここでいうマイペースな立ち回り方も基本は同じです。もう少し、具体的にどう立ち回ればよ

いかを解説します。

2. 現場でうまく立ち回れない実態とは？

皆さんが、現場で苦勞するのは、やはり対人関係ではないでしょうか？ 皆さんが対人関係で苦勞する相手のタイプは、①JA だからなんでもやれ、やって当たり前と依存してくる人、②JA に対立姿勢を示してぶつかってくる人、離れていく人、③第三者を使ったり、地位や立場を利用して威圧的に物事を進める人、という3つのパターンがあるかと思います。

どれも、めんどくさいですね～。できれば逃げたいですよ。

そして、皆さんは、JA の部会や青年部、様々な集まりをまとめ

る役をまかされることも多いと思います。この「人が集まる場」でどう立ち回るか？ 難しい問題ですよ。基本的に、農家さんは一人親方であり、自由奔放でなかなかまとまりません。また、集団になると、周囲の様子をみて自発的になかなか動かない人も多いですよ。

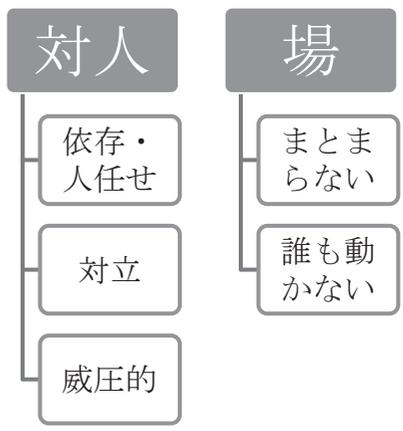
こうした難しい人間関係や集団の中でどう立ち回るか？ 皆さん日々苦勞していることだと思いますが、マイペースという解決法にヒントがないか見てみましょう。

3. マイペースに立ち回る3つのポイント

一つ目は、同じ競争の土台に上らないことです。トラブルを起こす人、あなたが仕事で苦手な相手は「競争好き」「争い好き」の人ではないでしょうか？ 今の世の中、ビジネスをするということはこの競争社会を勝ち抜くことが前提と思っている人です。こうした「争い好き」に何とか対応しようと無理するのではなく、「争わない」「受け流す」「負けてあげる」感覚が必要です。

「争い好きな人」と争っても結

図 現場でうまく立ち回れない実態



局うまくいかないことが多いですよ？ ならば思い切って彼らが勝つように一歩引いて、次に自分の要望を聞いてもらえばいいのです。この「一歩引く」という技を覚えると、仕事の立ち回りが一気に楽になります。仕事は、早くうまく進めることが大事であり、衝突して相手を打ち負かせればいいものではないのです。

二つ目は、「余白を残す」ことです。我々は結論をだそうとして無理をしてしまうことがあります。何とかしなくてはいけない！ という思いがプレッシャーとなっているのかもしれませんが。特に農業の現場では、なかなか答えが出ないことが多いです。それに甘えてはいけませんが、物事を白黒つけ

てしまうのも問題の原因となっています。

現場の問題で答が出ない時、相手に自分の間違いに気が付いて欲しい時、問

い詰めて答を急がずに「そのまま」にしておくという方法があります。その方が、時間がたってから好転することも多い場合があります。問い詰めずにいると、後で自らが気が付けてくれる場合もあります。そうすれば、その人のプライドを必要以上に傷つけることなく問題解決ができるケースがあるのです。

筆者もかつては現場で問題解決を急ぎ、相手の気持ちを顧みずによく失敗したものでした。相手の成長を信じ、寸止めするような感じでしょうか？ ぜひ試してみてください。欲しい立ち回り方です。

三つ目は、「一人一人と丁寧に接する」ことです。よく、組織の中には相手をみて態度を変える人がいますが、競争好きの人に多い傾向かもしれません。地位や役職や立場ではなく、一人一人丁寧に接している人は、マイペースな立

図 マイペースに立ち回る3つのポイント



ち回りが出来ている人です。一人一人と丁寧に接していると、思わぬところで助けてくれたり味方になってくれるものです。結局、仕事は一人ではうまく回りませんし、成功しません。手柄を立てたい人、誰かに怒っている人は、自分で自己完結してしまいがちですが、段々誰も関与しなくなり、ますます仕事を一人で背負うことになってしまいます。

丁寧に接することを、まずは挨拶や受け応えで「丁寧」を意識してみてください。

皆さんの職場にも、仕事はできるけど競争に打ち勝つことを強要してくる人がいないでしょうか？ 争いの輪から抜けて、結論を急がずに、一つ一つ丁寧に仕事を淡々と進めている人、こういうマイペースな立ち回りが、結局仕事が早く、うまく回るポイントだと思い

ます。

4. さいごに

現在は、なんとか成果を出そうと無理をする人、結果を急ぐあまりに衝突している人、何とか相手を論破しようと必要以上に攻撃をしてしまう人が多いように思います。しかし、実は小さい所にこだわっていたり、争うことに気をとられて、「仕事をうまく回す」ということを忘れていてのではないのでしょうか？

そこで今回は、皆さんの仕事の立ち回り方に「争わない」「そのままにしておく」「一步引く」という選択肢を覚えていただきました。うまく立ち回るヒントになればと思います。

また、皆さんの現場のまわりには、あきらめムードが漂っていたり、誰も動かない、という問題も

あるかもしれませんが、根底には、何かをやると人との衝突を起こすことを逃げてしまう潜在意識があるのかもしれませんが。今回取り上げたうまく立ち回ることを覚えると、トラブルや衝突を気にすることなく前に進めるので、結局行動して物事を進めることができるのです。一見、テキパキ仕事を進める人がうまく立ち回っているようにみえていても、最後に勝つのが「マイペースな立ち回り」ができる人であると思っています。

うまくいかない現状の中で、集団という「場」の問題をあげましたが、一番難しい問題ですよ。まず大切なのは、「場」を一気に何とかしようと思わずに、個々にマイペースに立ち回ることが前提だと思います。

この課題は、また別稿で取り上げます。

執筆者紹介



本田 茂…農業経営診断士。宮城県在住。農家や農業法人に対する経営支援をおこなうため平成24年10月独立。17年間JA 全農で青果物流通の現場にいた。主な担当品目は、菌茸類、豆類、土物全般、筍、梅、きゅうりなど。在職中に、平成22年経済産業省登録中小企業診断士となる。現在は、農家の商品開発や販路開拓、GLOBALGAP 認証支援、青果物市場の経営コンサルティングや人材育成、(社)日本食農連携機構東北支部事務局長を務め、農業者と企業とのマッチングの場づくりの活動を行っている。

●園芸担当者向け研修講師承ります。

お問い合わせは JA 経営実務担当栗野まで awano@zenkyou.com;